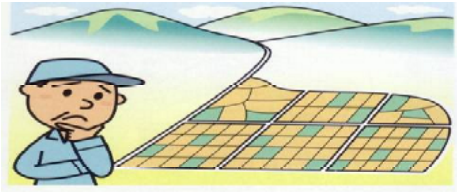
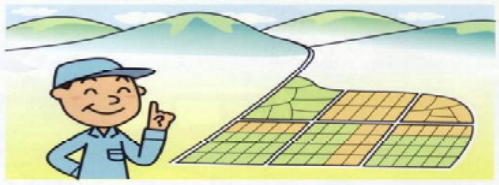
3．集落営農のメリット

集落営農のメリットにはどのようなものがありますか？

集落営農には次のようなメリットがあるといわれています。

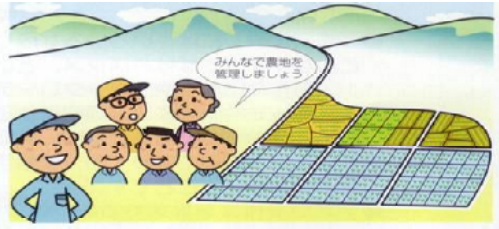
①　農地の面的利用集積

○集落を単位とした面的利用による農地の効率的利用と生産コストの低減

個別経営	集落営農
規模を拡大しても圃場が分散・点在 ↓ 効率的な経営条件が未整備 	地域で農地を面的まとまりにより利用可能 ↓ 農地の効率的利用、生産コストの低減 

②　地域農地の保全管理

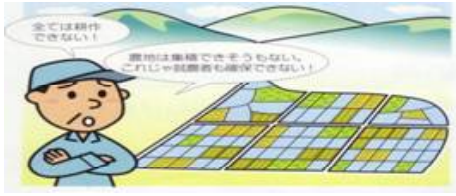
○集落全体で農地を管理し、耕作放棄地の発生を防ぎ、農地を保全

個別経営	集落営農
集積されない条件不利地は将来、遊休化するおそれ ↓ 農地の保全・管理上、問題 	地域の農地を共同して管理 ↓ 集落全体で農地を管理し、耕作放棄地の発生を防ぎ、農地を保全 

③　担い手の確保

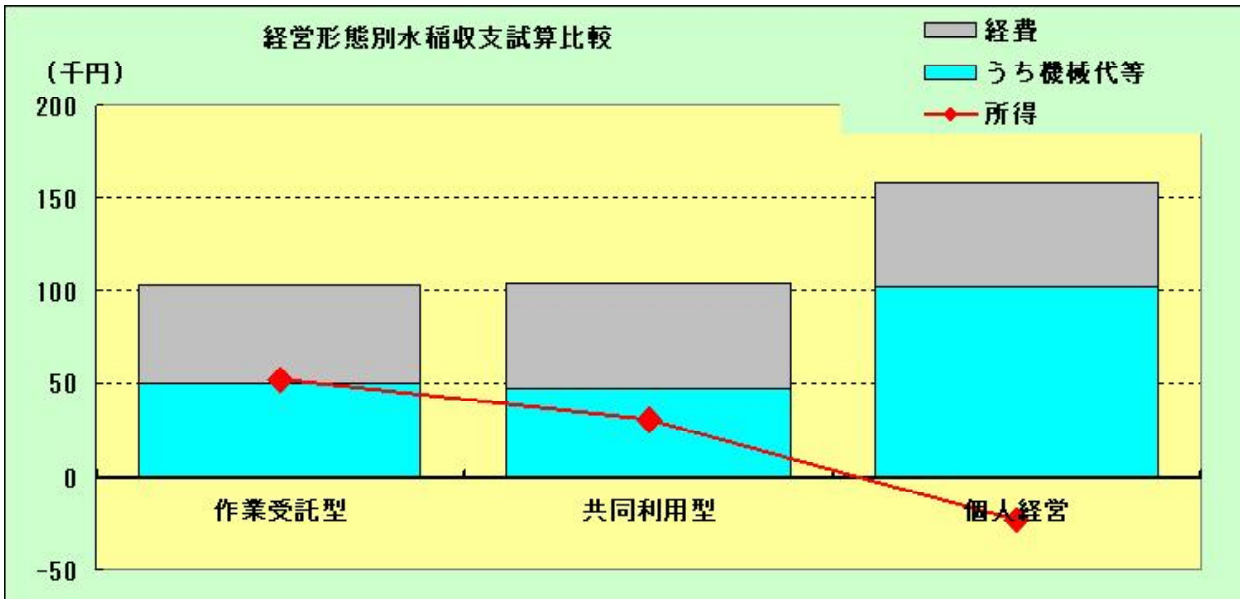
○農家個々に後継者がいなくても集落営農組織が担い手として地域農業を維持

○将来的には定年帰農や新規就農の受け皿となり得る

個別経営	集落営農
経営規模が零細な地域では担い手の減少や高齢化が顕著 ↓ 個別経営の規模拡大のみでは地域農業の担い手確保に限界 	組織化により、稲作を中心とした農業生産を継続することが可能 ↓ 農家個々に後継者がいなくても集落営農組織が担い手として地域農業を維持

④　経費の節減

○機械の共同利用等の集落営農により、経費が削減



《経営試算値》　（千円／10ａ）

集落営農ﾀｲﾌﾟ	収　入	経　費	うち機械代等	所　得
作業受託型	156.3 (米代136、賃金20.3)	103.9	50.7(作業委託料)	52.4
共同利用型	136（米代）	104.6	47.6(機械使用料)	31.4
個人経営	136（米代）	159.1	85.3(減価償却費)	△23.1

注）収量480kg、単価8,500円／30kg（7,900＋稲得600）、経費は県経営指導指針等より。

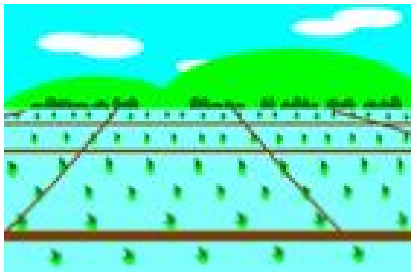
《試算条件設定》

集落営農ﾀｲﾌﾟ	戸数	経営面積	試算の条件
作業受託型	20	10　ha	ｵﾍﾟﾚｰﾀｰに全ての作業を委託する形態。
共同利用型	5	2.5	利用料金は償還金、修繕費等により設定。
個人経営	1	0.5	耕起～刈取機械は2戸共同所有、乾燥調製は委託。
共　　通			機械の性能・規模は経営規模に準じて設定。

⑤ 地域の活性化

○集落内の話し合いが活発化し、生産面以外の活動も促進

○女性や高齢者の役割を明確化し、能力を引き出すことにより集落の活力が向上

例えば‥‥

・地域文化の伝承
・むら祭りの実施
・景観作物の栽培による環境美化活動
・消費者交流、農業体験
・農産加工
・野菜等の産直